

指導資料



鹿児島県総合教育センター

英語 第67号

— 中学校・高等学校・特別支援学校対象 —

平成21年10月発行

ALTの特性を生かす活用の工夫と インタラクションを大切にした授業の在り方

JETプログラム（「語学指導等を行う外国青年招致事業」）がスタートして今年度で23年目を迎え、本県でも現在119人のALTが各学校を訪問している。生徒のコミュニケーションに対する積極性の高まりや聞く力の向上など、一定の成果がみられるが、生徒のコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力を育成する上で、ALTの更なる効果的活用が求められる。

そこで、本稿では、ALTを迎える際の心構えを含め、授業内外における効果的活用法について、具体例等を通して述べる。

1 ALTを迎える際の心構え

新規来日のALTを迎える際には、日本の滞在経験や日本語学習の経験があるかなど、教育委員会から事前に情報を得るとよい。ほとんどのALTは学校で教えることは初めてなので、一日も早く学校生活や授業に慣れるようきめ細かい援助をすることが大切である。

ALTが来校したら、オリエンテーションを設定し、必ず次のことを説明する。

① 学校の教育目標

② 地域や生徒の実態

③ 勤務時間

④ 年間の行事予定とそのうちのどの教育活動にALTが関わるのか

これら以外にも服装や勤務態度など説明すべき点はあるが、大切なのは明確に言葉で示すことである。また、名前を呼び捨てにすることについては、差別ととらえるALTもいるので、どのように呼ぶべきか最初に尋ねるとよい。

英語科職員はもちろんのこと、学校の一員として学校全体で温かく迎え、気軽に話をする雰囲気作りが大切である。まずは、良好な人間関係の構築が共に仕事をする上で、最も大切なことである。

2 授業外における活用

ALTはネイティブ・スピーカーであるだけでなく、様々な特技をもつ場合が多い。早めに本人の専攻や得意なことなどを聞き出し、更なる効果的活用に役立てたい。

(1) 教材・教具の作成

ア 描かせる

絵を描くのが得意なALTにはス

トリーを絵や漫画にさせる。絵をヒントに生徒は話したり、書いたりして、ストーリーを再構築する活動をする。

イ 書かせる

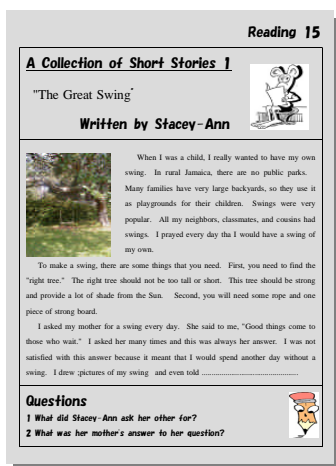
オーセンティックな題材を扱ったものや、身近なネイティブ・スピーカーであるALTが書いたものは生徒の興味・関心を高める。特に、後者は生徒に、ALTに対する親近感をもたせる上でも効果的である。

(7) 英字新聞、インターネット記事等

写真や絵の付いた記事や生徒に馴染みのある記事を選び、生徒の実態に合った英語にリライトさせる。

(イ) ALTのオリジナル作品

母国や学生時代のこと、来日後経験したことや感じたことなどを短い文章にまとめさせ



(指導資料 英語 第65号より)

シリーズ化する。ALTオリジナルの様式で作成させる。

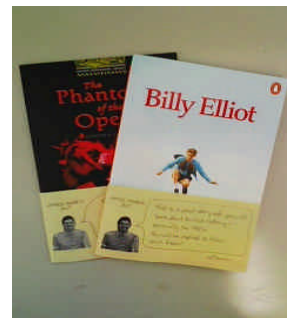
また、newsletter等を定期的作成、発行するのもよい。

(ウ) 書評

ペーパーバックコーナーを図書館に設置したり、長期休業を利用して読ませたりすることもあるだろう。生徒の興味を引くような書評をALT

Tにやさしい英語で書かせ、帯としてペーパーバックに付けたり、しおり

りとして配付したりする。ALTの似顔絵や写真と、サイン入りに



すれば、更に(指導資料 英語 第65号より)親しみを感じるので効果的である。

(エ) パンフレット等

ALTが帰国したり外国に旅行したりする際には観光案内、美術館、博物館、劇場などのパンフレットや広告等を持ち帰ってもらい、それを基に scanning や skimming の教材を作成させる。

(2) 課外指導

授業外で生徒がALTからの指導を直接受ける機会を積極的につくりたい。そのことで、なかなか自分からALTに話しかけられない生徒も個人的に関わることができ、英語に対する興味・関心の更なる高まりが期待できる。

ア 音読・暗誦の指導

右のような音読(暗誦)カードを作成し、放課後や休

Lesson	Signature	Date
Lesson 1	James	7/5
Part 1	James	6/25
Part 2	James	6/28
Part 3	James	6/30

み時間等を使って、生徒の音読や暗誦をALTに指導させる。パートごと、そしてレッスン全体を読むことができたなら、サインをさせる。生徒にはいい

動機付けとなるし、カードがサインで埋まれば達成感につながる。

イ スピーチ、ディベート等の指導

中学校、高等学校ともにスピーチ等のコンテストが毎年開催されるので、積極的に生徒を参加させたい。その際、ALTの協力は欠かせないものである。原稿チェック、音声面の指導はもちろんのこと、効果的なプレゼンテーションの在り方、姿勢や視線などについても指導させる。学生時代にスピーチやディベートを本格的に行った経験のあるALTもいる。是非、そのような経験を活用したい。

指導を充実させるためにも、原稿の準備は、十分余裕をもって行わなければならない。

ウ その他

英語のサマーセミナー（現在、県内四つの高校で行っている。）などいろいろな面で活用ができる。

(ア) 英語会話クラブ

(イ) SHRでの連絡

(ウ) LHRでの異文化理解，国際理解教育に関する授業

(エ) 全校朝会等での講話

(オ) 文化祭での英語劇，英語合唱

その他、遠足、体育祭等の学校行事や清掃活動等に参加させる。特に、学校に常駐しているALTには行事等においても何らかの役割を与え、学校の一員としての自覚と誇りを持たせることが大切である。

また、英語科職員の英語の運用能力

アップのための研修等にも是非活用したい。

3 授業における活用

ティーム・ティーチングはネイティブ・スピーカーと、生徒と同じ言語を母国語とする教師による授業であり、その利点を最大限に生かさなければならない。

(1) インタクションを大切にしたティーム・ティーチングの形

ALTとJTEの息の合った授業は大きな効果をもたらす。下の図はALT，JTE，生徒間のインタクションを示したものである。

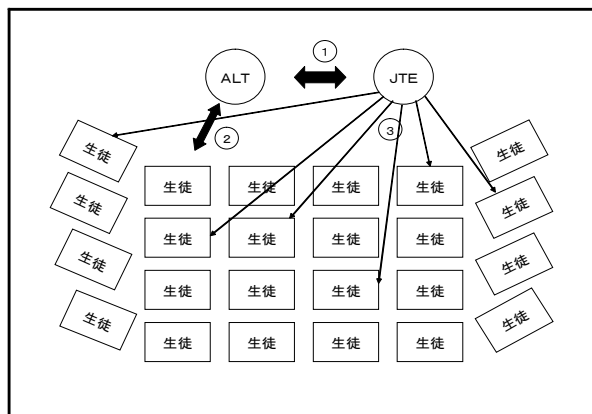


図 ALT，JTE，生徒間のインタクション

ALTとJTEは常にお互いの動きを意識しながら連携をとり（図中①），例えば、ALTが主となっている（図中②）時もJTEは常に生徒の反応からどの程度理解しているかを観察しておく（図中③）必要がある。もし、生徒の理解が不十分な場合は、ゆっくり話したり、易しく言い換えたりするようALTに指示をする。また、机間指導を多用するなど、個に応じたきめ細かい指導をすることが大切である。

(2) A L T の効果的活用を図った授業
 次は、読んだことをもとに、考えたこ

とをグループで話し合い、発表する言語
 活動を含む本時(a/a)の展開例である。

過程	生徒の主な活動	J T E の役割	A L T の役割	指導上の留意点
導入	1 あいさつをする。 2 A L T と J T E の small talk を聞く。 3 質問の答えを考え、質問に答える。 ペア A L T と J T E が会話することにより、生徒の興味・関心が一層高まる。自分も話せるようになりたいと感じる。	1 あいさつをする。 2 掛け合いで、small talk をする。 3 生徒に英語で答えさせる。 4 机間指導をしながら、生徒の理解を確かめる。	3 small talk の内容について質問をする。 生徒の反応により柔軟に対応。答えた生徒の喜びが大きい。	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを恐れることなく、英語を使う雰囲気を作る。 生徒の顔や反応をよく見て、理解を確かめながら話を進める。理解していないような時は言い換えるなどの配慮をする。
展開	1 本単元に出てきた単語、文法事項等の確認、発音練習等をする。 2 単語を発表する。 ペア 生徒の反応に、より柔軟に対応できる。J T E の協力により生徒のレベルに合う語彙を提供できる。 3 本単元を読んで考えたことを話し合い、まとめる。 グループ 4 英語で発表する。 代表 5 A L T の質問に答える。 グループの生徒 即興性のある活動で、答えた生徒の達成感が大きく、他の生徒にもよい動機付けとなる。	1 本単元の重要単語、文法等を確認させる。 プリント 2 本単元に関係ある語を生徒に発表させる。 3 机間指導をしながら、意見交換が活発になるよう支援する。 4 発表を聞く。 5 机間指導をしながら、全員が発表を聞くようにさせる。	1 プリントを使って発音練習等をさせる。 2 本単元に関係ある語をスパイダグラムにする。 4 発表を聞く。 5 内容について質問をしたり、または、他のグループの生徒に質問させたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 本単元で学んだことの定着を図り、活用することができるように確認をさせる。 言語活動を充実させるために、単元のテーマに関する語を挙げさせる。生徒は日本語を使ってもよい。 クラスメートの発表をきちんと聞くようにさせる。 生徒に英語で質問したり、させたりすることで、即興性のある活動につなげる。
終末	1 A L T と J T E の話を聞く。 2 次時の授業の確認をする。	1 授業のまとめをする。 2 次時の予告をする。	1 活動に対するコメントをする。	<ul style="list-style-type: none"> ほめて、自信をもたせる。

ティーム・ティーチングの成功には、十分な打合せが必要である。one-shot visit の場合には、メールやF A Xを活用するなどして、早めに連絡を取り合い、それぞれの役割を確認しておく必要がある。

生徒に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力を育成する上で、A L T は極めて重要な役割を担

う。ネイティブ・スピーカーとしての特色を生かした授業の展開を工夫するとともに、授業以外でも大いに活用を図ってほしい。

【引用・参考文献】

中学校学習指導要領解説 外国語編 平成20年9月
 高等学校学習指導要領解説 外国語編 平成11年12月
 文部科学省
 英語教育 5 大修館書店 2008
 指導資料 英語第65号 平成20年10月
 鹿児島県総合教育センター
 (教科教育研修課)